

社会科学習指導案

日時 平成21年11月17日(火)

学級 紫波町立紫波第一中学校

3年4組 37名

場所 3年4組教室

授業者 菅原 実

1 単元名 第4章 私たちの暮らしと経済 第3節 国民生活と福祉

2 単元について

(1) 教材について

この単元は、学習指導要領公民的分野における内容(2)ーイに基づいており、国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせることを主なねらいにしている。その際には、社会資本の整備、公害の防止などの環境保全、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割および国民の納税の義務について理解させるとともに、財政の役割についても考えさせることが必要である。

限られた財源をどう配分するかという財政の基本的な考え方については、具体的な事例を取り上げたり、生徒の体験を取り上げたりして理解を深め、身近な事柄としてとらえさせたい。我が国は、高齢者の増加と年少人口の減少が同時並行的に進行した結果、少子高齢の人口構成が急速に進んだ。その結果、高齢者への年金等の社会保障関係の給付額が年々増加し、一般歳出における社会保障関係費の割合が増加している。そのため、財政再建を早急に進めていかなければならない状況にあり、歳出を抑制するとともに増税などの負担のあり方を考える動きも見られるようになってきた。また、公債の発行も年々増加し、2008年における公債残高は553兆円にもものぼり、国民一人当たりになると433万もの借金を抱えていることになる。財政赤字の増加は今後の福祉サービスの低下などにつながることも考えられ、将来の若い世代への負担を増やしてしまうことになる。

そこで、本単元では、国民生活の向上のために国や地方公共団体が果たしている経済的な役割を、租税の意義と役割、国民の納税の義務を通して理解させるとともに、財源の望ましい配分について考えさせる。また、少子高齢社会や環境の保全といった社会の変化にもともなって生起する諸問題について、持続可能な社会を形成するという観点から自分の考えをまとめさせ、将来の主権者として自ら積極的に社会に参画をして行こうとする意欲を高める契機としたい。

(2) 生徒について

社会科に対する興味・関心の高い生徒が比較的多く、自分の身の回りの出来事やニュースが授業の中で話題になることも多い。その一方で、発言は特定の生徒に限られる傾向があり、社会科に抵抗感を感じる生徒も見受けられる。

社会の仕組みに興味を持ち概ね意欲的に学習に取り組んでいるが、教科書の語句を覚えることに終始してしまい、身近な生活に結び付けて考えることができないでいる生徒も見られる。また、資料を読み取り、自分の考えたことを具体的な根拠に基づいてすることを苦手としている生徒が多い。自分で考えることをせず、根拠もなく他の生徒のまねに走ってしまう生徒もいる。グループによる学習を肯定的に捉えている生徒が多いが、話し合いにおいては一方的に自らを考えを提示するにとどまっており、相手に反論をするなどの意見を絡ませる交流にはいたっていない。

したがって、資料から推測・考察する活動を大切にするとともに、グループでの意見交流を通

して聴き取る力、自分の考えを確かに伝える力を育てて行きたいと考える。

(3) 研究に関わって

学習指導要領では、社会的事象を説明したり、記述したり、自分の意見をまとめたり、意見を交換するなどの学習を通して、思考力、判断力、表現力を養い、学習内容の確かな理解と定着を図るために「言語活動の充実」が重視されている。また、本校社会科教科班が「表現力を高める授業のあり方」として重視する点も「言語活動の充実」にある。そこで、日々の授業において様々な手立てを講じながら「言語活動の充実」を図りながら、「表現力」を高まる必要があると考える。

本校社会科は、「表現力」を以下の3つととらえている。

- ① 社会的事象に対して、疑問点や自分の考えを書き表す（記述する）力
- ② 生徒同士の話し合いの中で、疑問点や自分の考えを述べる（説明する）力
- ③ 社会的事象について、自分の体験や考え、解決策を発表する（論述する）力

その際に、「表現力」を高めるためには、その背景にある「目に見えない力」を高めていくことも合わせて重要と考えている。「目に見えない力」とは、次の3つととらえている。

ア 話を聞いて内容を理解し、自分の思考に取り入れようとする聴解力

イ 自分の考えを明確にする力

ウ 表現したいことを確かに伝達する力

アについては、メモを取りながら話を聞いたり、発表場面で使用する学習シートに工夫を加えたりするなどの手立てを講じている。イについては、自分の考えを整理し推敲するために、ノートや学習シートに考えを記述させたり、授業の終末段階において「授業をとおして分かったこと」を記述させるなどの工夫を取り入れている。ウについては、分かりやすく伝えるためには語彙力を豊かにすることが必要であり、また基礎的・基本的な知識の習得も重要であるため、授業の導入部分で小テストを実施したり、授業の中に意図的に考えを交流する場面を取り入れたりしている。

本単元においては、上記の点を最大限考慮し、言語活動が活発に行われるような活動場면을意図的に組み入れることによって、生徒の「表現力」を向上させたいと考えている。

3 単元の目標

- (1) 国や地方公共団体の経済活動に関心を持ち、経済上の諸課題を自分たちの問題として考えようとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 国民生活と福祉の向上のために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について多面的・多角的に考え、様々な観点から公正に判断している。(思考・判断)
- (3) 様々な情報から必要なものを取捨選択し、それをもとに自分の考えをまとめ、分かりやすく表現することができる。(技能・表現)
- (4) 国や地方公共団体の果たす経済的役割について、租税と財政、社会保障、公害と環境を通して知識を身につけ、理解することができる。(知識・理解)

4 単元の指導計画と評価計画

時間	学習内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	評価方法
1	政府の仕事と租税		租税の意義と役割、納税の義務について、さまざまな立場から公正に判断している		社会資本の内容や、税制の大まかなしくみとその役割について理解している	観察 学習シート
1	財政のはたらき	自分たちの暮らしと財政の関係についての関心が高まっている	資料をもとに、財政の課題と望ましい財源の配分について、多面的・多角的に考察している			観察 学習シート ノート
1	社会保障と国民の福祉	資料の読み取りを通して高齢社会についての関心が高まっている			社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度の概略を理解している	観察 学習シート
①	これからの社会保障		今後の社会保障のあり方について、具体的な根拠に基づいて多面的・多角的に考察している	資料をもとに自分の考えをまとめ、わかりやすく発表している		観察 学習シート 発表
1	公害の防止と環境保全		環境を守るためにはどうしたらよいか、どんなかわりができるかについてさまざまな立場から考察している		公害の発生と原因、環境汚染・自然破壊の問題について理解し、環境を守ることの重要性を理解している	観察 学習シート
1	日本経済の課題	資料の読み取りに意欲的に取り組み、日本経済の特徴や経済の諸課題に関心を持っている	経済活動の意義や今後のあり方について多面的・多角的に考察している			観察 学習シート

5 本時について

(1) 主 題 これからの社会保障

(2) 目 標

- ・今後の社会保障のあり方について、少子高齢社会と財政の現状を踏まえたうえで、具体的な根拠に基づいて多面的・多角的に考察している。【思考・判断】
- ・現在の社会保障の抱える課題についての解決策を、適切に資料を選択、活用して自分なりに考えて表現することができる。【技能・表現】

(3) 本時の構想

本時の授業では、前時までに学習した「財政の現状」と「少子高齢社会の進展」を踏まえ、資料をもとに今後の望ましい社会保障のあり方を考えていく活動が中心となる。その際、仲間との意見交流を通してさまざまな考えに触れ、自らの意見を磨かせたいと考える。

導入部においては、視覚に訴えるように資料を提示し、現在の社会保障制度の問題点をつかませるとともに、自分たちの将来に関わる問題であることに気づかせたい。

展開部の学習過程は、「現状の把握」、「解決策の検討（価値判断）」、「意見交流」、「解決策の再検討（再度価値判断）」という流れで進めていく。「現状の把握」の段階では、まず社会保障のあり方についての2つの意見（社会保障は国が中心となって行っていくべき・個人が中心となって行っていくべき）とその根拠となっている理念を提示する。その後、それぞれの考え方の問題点を資料の読み取りを通してグループごとに考えさせる。グループでの学習という形態をとることによって、多様な意見がでることが期待できるほか、自分の力だけでは気づくことが困難な生徒に対する周囲の支援も期待される。さらに、活動を通して互いのよさや違いを認め合い、助け合いながら学習する姿勢を身につけさせたいと考える。「解決策の検討」の段階では、「現状の把握」で確認した事項をもとに、社会保障の主体が国・個人のどちらの立場をとるのかを選択させたい。どのような政策をとればよいのかをできるだけ具体的に考えさせたい。その際、自分の考えをまとめることのできない生徒については、考える視点を与えるなどの支援を行う。「意見交流の段階」では、自分の意見と比較させながら他の意見を聞かせることにより、更に自分の考えを深めさせたい。「解決策の再検討」の段階では、周囲との意見交換を通しての気づきや考えの変化などをもとにして、再度自分の意見を検討させる。そのことによって、活動や思考の過程が個人→集団→個人の流れになり、個人的な考えだけに留まらず、他との係わりを通して多角的に考えを深めることができると考える。

終結部では、本時の学習を踏まえたうえで、今後の社会保障のあり方についての要望をまとめさせる。終末はオープンエンドとし、多様な価値が認められるようにしていきたい。

また、本時において「表現力を高める手だて」を以下のような意図を持って指導したいと考えている。

「聴き取る力」を高めるために、まず個人の考えを明らかにさせ、その後「意見交流」の場を設定する。それは、基準となる自分の考えを持って他の意見を聞くことができ、自分と他、他と他を比較しながら考えを深めていくことができるととらえているからである。意見交流の際には、より聴き取りに集中させるためにメモを取らせるようにする。その際、疑問点・自分の意見との違いを確認するように学習シートを活用させたい。

「自分の考えを明確にする力」を高めるために、「解決策の検討」・「解決策の再検討」の段階において、学習シートに自分の考えを記述させる。その際、なぜそう考えたのか（理由）を記述させる。また、「意見交流」の後に再度解決策を検討させることによって、他の意見を踏まえたうえで、自分の考えを明確にまとめさせたい。

「確かに伝達する力」を高めるために、「現状の把握」の場面において付箋を用いて考えを表明させる。また、「意見交流」の場を意図的に授業の中に設定し発表の仕方を工夫させる。その際、学習シートを活用して、「結論」→「理由」→「根拠」の流れで発表させたい。

(4)本時の展開

★使用する教具・資料 ☆留意点・発問 ■評価場面 □研究に関わる場面

段階	学習項目	学 習 活 動	時間	指導上の留意点
導 入	1.前時の確認 【個人】	(1)前時の活動を振り返る	7 分	☆本時の学習内容に関わる語句について確認させる。 ★紙板書
	2.課題の設定 【全体】	(1)資料から、少子高齢化が進んでいることと、それに伴って社会保障に関する支出が増大の一途をたどっていることに気づく。 (2)学習課題を確認する		★人口ピラミッド・社会保障費の推移 ☆現在の制度では、将来的に行き詰まってしまうことに気づかせたい。 ★紙板書
これからの社会保障制度はどうあればよいのだろうか？				
展 開	3.現状の把握 【個人→グループ→全体】	(1)今後の社会保障のあり方について、2つの意見があることをつかむ。 A：社会保障は国が中心となって行っていくべきである B：社会保障は個人の責任で行っていくべきである (2)2つの意見はどのような理念に基づいているかをつかむ。 (3)2つの意見には、それぞれどのような問題があるのか、グループごとに考える。 (4)社会保障と税負担について、世界的な考え方をつかむ。	10 分	★紙板書 ☆2つの意見に基づいている理念を提示する ★紙板書 ★資料プリント □「確かに伝達する力」を高める手立て→付箋を用いて考えを伝える。 ☆なぜそう考えたのか、理由も書かせる。 ★学習シート・付箋 ☆ヨーロッパとアメリカの社会保障制度の違いを提示する。 ★紙板書
	4.解決策の構成 【個人】	(1)A・Bどちらの意見を支持するか選択する。 (2)「現状の把握」を受けて、自分の考えの根拠を明らかにする。		□「自分の考えを明確にする力」を高めるための手立て→学習シートに自分の考えを記入する。 ★資料プリント ☆自分の考えが、どのような根拠に基づいているのかを明確にさせる。

	<p>5.意見交流 【グループ→全体】</p>	<p>(3)具体的な政策内容について考える。</p> <p>(1)グループ内で個人の解決策を発表し合う。</p> <p>(2)A・Bそれぞれの立場からの解決策を発表する。</p>	<p>8分</p>	<p>★資料プリント</p> <p>☆様々な観点から政策を考えるように指示する。</p> <p>□「確かに伝達する力」を高める手立て→学習シートを活用して、自分の考えを端的に発表させる。</p> <p>■評価場面Ⅰ【技能・表現】</p> <p>自分の考えをまとめてわかりやすく発表することができる</p> <p>方法：観察、学習シートへの記入</p> <p>□「聴き取る力」を高める手立て→他の人の意見を聞きながらメモを取る。</p> <p>☆自分の意見と比較しながら(関連や違い・疑問点などの視点を与える)、他の意見を聞かせる。</p> <p>★学習シート</p>
	<p>6.解決策の再構成 【個人→全体】</p>	<p>(1)意見交流をふまえ、再度個人で解決策を考える。</p> <p>(2)最終的な解決策を発表する。</p>	<p>10分</p>	<p>□「聴き取る力」を高める手立て→他の発表を聞きながらメモを取る。</p> <p>☆自分の考えと比較しながら(関連や違い・疑問点などの視点を与える)、他の意見を聞かせる。</p> <p>★学習シート</p> <p>■評価場面Ⅱ【思考・判断】</p> <p>今後の社会保障のあり方について、具体的な根拠に基づいて自分の考えを記述することができる。</p> <p>方法：観察、学習シート</p> <p>★学習シート</p> <p>☆自分の考えが変わってもいいことを伝える。変わった場合は、その理由も記述(発表)させる。</p>
<p>終結</p>	<p>7.振り返り</p>	<p>(1)授業を振り返って、学習シートに考えたことを記入する。</p> <p>(2)今後の社会保障のあり方について、自分なりの要望をまとめる。</p>	<p>5分</p>	<p>★学習シート</p> <p>☆学習の終結はオープンエンドとして、多様な価値が認められるようにする。</p>